

第 1 部 調査概要

本調査の目的

この調査の目的は、主として医療機関に入院している認知症をもつ高齢者(65歳以上の者)に対し行われているチーム医療について、老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師が勤務する医療機関等における診療報酬制度に既記載の各チーム加算の算定状況、行動心理兆候(BPSD)を生じた認知症高齢者数、およびそのケアの内容、リスクイベントの発生状況、具体的なチーム医療の内容を収集・分析し、認知症をもつ高齢者へのチーム医療の実態を把握することである。

調査対象

この調査は、2013年11月現在、日本看護協会に登録されている老人看護専門看護師(55名)、認知症看護認定看護師(345名)の資格を有する看護師(計400名)を対象とした。

調査方法と調査期間

2014年2月1日～2月28日の1か月間を調査期間とし、前向き調査を実施した。2013年12月に調査の案内を電子メールで配信し、2014年1月上旬に調査対象者に対して調査票を電子メールで配信し、2014年2月の1か月間のチーム医療の実態について、対象者が記入する方法をとった。

回答期間と回答方法

回答期間は2014年3月1日(土)から3月20日(木)23時59分までとし、回答はインターネットを用い、日本老年看護学会 老年看護政策検討委員会が用意したサーバ上で電子的に収集する方法とした。対象者がPCから本委員会指定のURLにアクセスし、あらかじめ記入を依頼した手元の調査票に基づき、Web画面で回答を入力する方法とした。なお、各回答者が記録用に使用した調査票は、回答終了後、破棄するよう依頼した。

回答前の準備の依頼

回答者には勤務する医療機関の病床数、職員数、2014年2月の入退院患者数、2014年2月中のある一日に回答者が勤務している病棟/ユニットに入院していた患者の自立度、要介護度、認知症と診断を受けている患者の認知症の程度、入院直前の生活場所、退院先、2014年2月に医療機関が算定したチームケア加算の患者数、認知症患者の行動心理兆候(BPSD)、具体的なチーム医療の内容等についての情報を2月中にまとめるように依頼した。

2013年12月にパイロットテストを行い、回答が困難である項目がないか確認を行い、それらの修正を行った。

倫理的配慮

本調査への協力は自由意思により行うことを文書で説明した。Web上の回答初期画面に「回答に同意する」ボタンを置き、それをクリックすることで同意とみなした。協力しない場合であっても、不利益は生じないことを保証した。一度協力に同意した場合でも、回答の入力・送信前であれば、協力を撤回できることを文書で説明した。回答は無記名とした。入力・送信したデータはサーバに保存され、IPアドレスが記録されるが、本調査システムの開発を委託した業者がIPアドレスを削除した上で、調査結果の生データを本委員会に提出する方法をとり、回答者が特定できないように配慮した。回答を記録するサーバは不正アクセス防止の対策が行われ、回答者との通信内容はSSLにより暗号化されるなど、第三者からのデータの取得を困難にするセキュリティ対策がレンタルサーバ会社により実施されたものを利用した。サーバは調査期間中のみ開設し、調査期間終了後は削除した。本調査は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号13-062)。